

『喜びと貧しさがあふれ出る』(二コリ 8:1~7)

パウロは、コリントの教会の人たちにマケドニアの諸教会に与えられた神さまの恵み、エルサレム原始教会への献金、の出来事を知らせようとしていました。2節で、パウロは、「マケドニアの教会の信徒たちはパウロの言うことに従順に従って、パウロの教えを素直に受け入れただけでなく、パウロが求めるエルサレム原始教会への献金にも積極的に参加してくれた。彼らは、イエス派に対する迫害に耐えることによって、自分たちの信仰が本物であることを明らかにした。」と語っています。マケドニアの教会の人たちは、キリスト者であることで迫害され、他の人たちとから嫌悪され、生活も貧しい状況に追い込まれていたと言われていました。2節の「その満ち満ちた喜びと極度の貧しさがあふれ出て、」はわかりにくく文章です。田川建三氏は「彼らの満ちあふれる喜びと、彼らの深刻な貧困とが、満ちあふれて」と訳しています。それによれば、彼らは極度の貧しさゆえに、かえって純真にエルサレム原始教会の献金活動に応じたという意味になります。パウロは、これは単なる金銭問題ではなく、神の恵みなのだから、純真さをもって応えないといけないと言っているのです。3節には彼らに極めて積極的な姿勢が見られたことが記されています。5節を岩波訳は「しかも、私たちが期待したようにではなく、むしろ神の意思に従って、己れ自身を、まず第一に主に、そして〔次に〕私たちに献げたのである」と訳しています。それは、エルサレム原始教会への献金だけではなく、パウロが予想していなかったこと、生活費の援助をまず、パウロたちにしてくれたということです。パウロにとって、自分の生活費を支えてくれることは、パウロたちが行っている宣教活動を支えることになるのですから、主に対して自らを捧げる行為であると思えたのでしょう。パウロは、「マケドニアの人たちは貧困にも拘わらず、エルサレム原始教会への献金に熱心に協力した。それに対して、コリントの教会の人たちは、全てに満ちあふれているのに、献金に協力してくれない。少しは協力して欲しい。」と言っているのです。

私たちはあらゆる必要なものを与えてくださる神さまに支えられています。パウロは「与えられた恵みを自分の内に留めたままにせず、隣人に与えなさい」と語っています。私たちは与えられているものを他者に渡す時、貧しくなりますが、貧しくなるからこそ、与えられている恵みを本当に実感し、苦しみや貧しさに勝る喜びがわたしたちの内から溢れ出て、喜ぶことができるのです。神さまから与えられている恵みを自分に溜め込み、無駄にしてはなりません。私たちは、他者に恵みを受け渡し、一見貧しくなったようですが、多くの人を富ませ、悲しんでいるようで、常に喜ぶことができます。